

2023年5月21日

「主イエスに出会う道」

ヨハネによる福音書 28:16-20

竹島 敏牧師

復活の主は、弟子たちとの再会の約束を婦人たちに託したが、弟子たちは復活の主との約束どおりの再会を果たしたにもかかわらず、なおも疑った。それは主の復活を、主の言葉の実現を疑ったということです。しかし、疑う弟子たちを主は全く叱責されず、そのままに受け入れ、弟子たちを伝道へと遣わし、そして世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる、という恵みに満ちた約束をしてくださっています。ここに主の愛の深さが示されているといえるでしょう。主の十字架と復活の出来事の後、なおも疑い迷い続けた主の直弟子たちは、やがてとてつもなく強く深い信仰へと導かれてゆきました。

間違いをおかしやすい人間である以上、私たちには、疑い迷うことが必要です。いろいろな人と対話して、恥じることなく自らの姿勢を軌道修正しつつ、共に模索しつつ歩む必要があるのです。あえて言うなら、ひれ伏しつつも疑い、疑いつつもひれ伏しながら歩むのが、私たち信仰者の健全な姿なのだと教えているのではないのでしょうか。私たちが一人ではなく、共に集い、共にみ言葉に聴き、恵みを分かち合うことの意味はそこにあるのです。中途半端な信仰のままでも、宣べ伝えなさい、その中で新たに気づき互いに学び直し、信仰を養い深めなさい、とされているのだと思うのです。疑い迷うことを通してより深く、より真実に神に頼り、神と出会い、神に従って生きる道へと導かれるのです。神を神とし、人を人とする、そのような謙遜で自由な生き方へと導かれるのです。疑い迷う私たちの弱さを主は祝福し、用いてくださることを信じて、神の被造物としての限界の中で、精一杯のありのままの姿で主に仕え、その姿をもって世に証しし続けてゆくことが出来ますように。